

## 沖縄県の言語状況の今を知る

申請者：総合政策学部 教授 平高史也

文責：政策・メディア研究科 荒木萌

### 1. 活動目的

本活動は、研究会のテーマである社会言語学の切り口（特に、地域日本語教育と言語政策）から沖縄県の現状にアプローチし、同県が抱える課題を通して、自分たちの住む地域の言語や社会に関わる問題の視座を得ることを目的とする。その際、日本語指導が必要な児童に対して実施されている日本語教室と、数年前から沖縄県が進めている「しまくとぅば普及推進行動計画」を軸とする。前者は地域の定住外国人や国際結婚の子どもを対象とした学校の日本語教室の見学を通して、外国人の子どもが多い他の地域における日本語教室と共通の問題点や沖縄県特有の課題を探ることをねらいとする。後者は都道府県が実施する言語政策として他県では例を見ないものであり、消滅の危機に瀕する言語の復興の実情や課題を知ることができる。

また、毎学期末に実施している所属学生の研究発表を行い、個々の研究テーマについて議論を行い、意見を交換することで研究会を活性化させる。さらに、戦跡ツアーによる平和学習を通して、沖縄県が抱える問題から日本社会全体の安全保障や民主主義について考えるきっかけを得る。

### 2. 活動内容

《1日目》

午後：研究会ゼミにて個人研究の最終発表 6名

《2日目》

午前：研究会ゼミにて個人研究の最終発表 5名



(写真：研究発表の様子)

午後：戦跡巡り

沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館等



(写真左：平和祈念資料館前、右:ひめゆり平和祈念資料館前)

### 《3日目》

午前：小学校訪問

那覇市立真嘉比小学校にて、日本語指導が必要な児童の日本語教室の見学



(写真：真嘉比小学校前)

午後：県庁訪問

沖縄県庁文化振興課で「しまくとぅば普及推進行動計画」についてヒヤリング

### 3. 今後の展望

本合宿を通して、普段から頻繁に研究会でテーマとしている議論されている外国籍の子どもに対する日本語教育の現場を見学し、ユネスコによって消滅危機言語として知られる沖縄の方言とその復興について知識を深めることができた。普段の授業では、社会言語学にまつわる事象について調べ、議論することが多いが、今回の合宿では実際に現場に足を運び、ヒヤリングを行うという貴重な経験をすることができた。今後の研究会では、これらの議論の更なる発展を目指していきたい。

### 4. 謝辞

湘南藤沢学会の助成により、非常に有意義な合宿を行うことができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。